

平成15年度(第9回)
千葉県臨床衛生検査技師会
病理検査研究班精度管理報告

病理検査研究班

中村 和昭・東 和彦・大木 昌二・西野 武夫
井浦 宏・中山 茂・青柳 正則・岸沢 充

精度管理実施要項

目的 :染色の良否が問題ではなく、適正な処理法を身につけることを目的とする。

方法 :未染標本を配布し、各施設の通常の方法で染色を行ない、アンケートと共に標本を回収。

材料 :既存の精度管理使用ブロック (解剖例の肝臓)

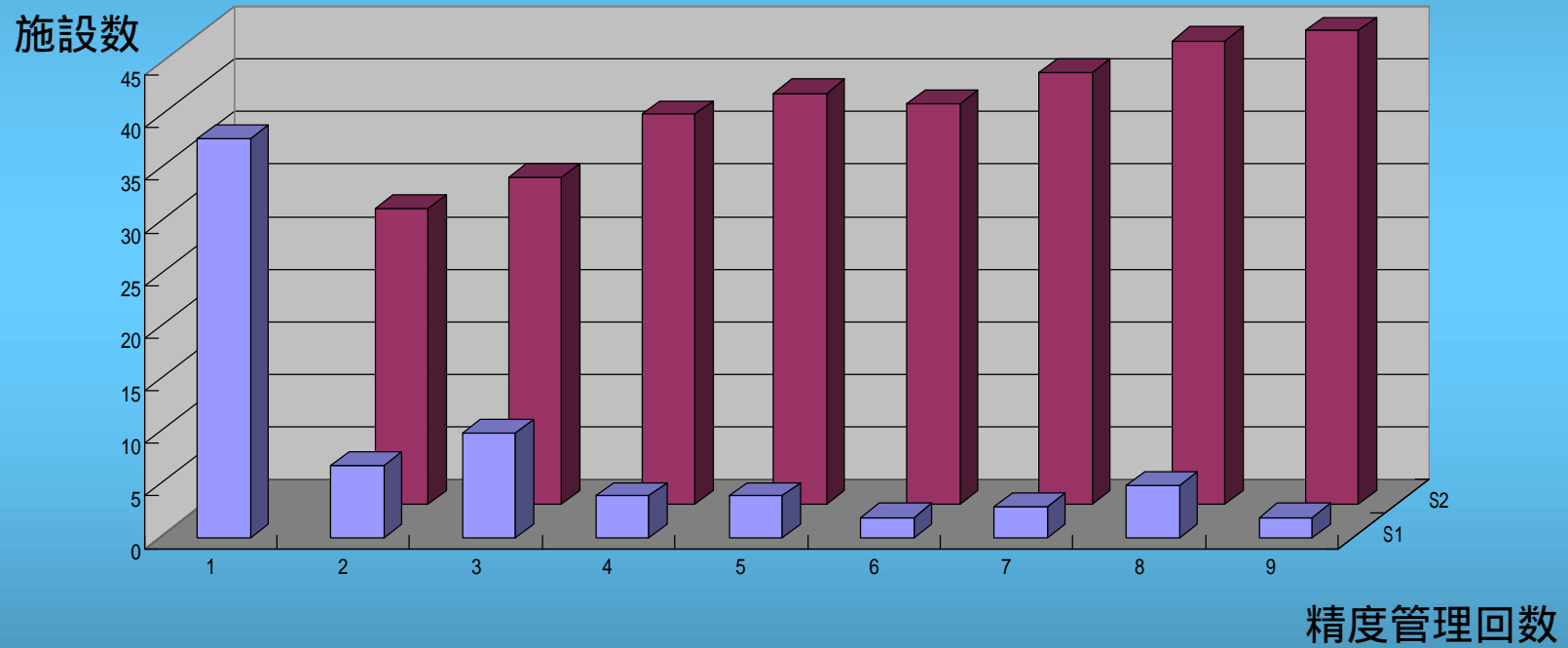
平成15年度病理検査研究班精度管理参加施設

参加施設45 (新規参加施設2)

国立千葉東病院
国立千葉病院
千葉社会保険病院
千葉市立青葉病院
放射線医学総合研究所重粒子医科学センター
JFE健康保険組合川鉄千葉病院
千葉中央臨床検査センター
千葉労災病院
君津中央病院
総合病院国保成東病院
国立精神神経センター国府台病院
東京歯科大学市川総合病院
国保松戸市立病院
浦安市川市民病院
銚子市立総合病院
総合病院国保旭中央病院
千葉県立佐原病院
成田赤十字病院
安房医師会病院
亀田総合病院
千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学
化学療法研究所附属病院

千葉県循環器病センター
国立療養所下志津病院
千葉県救急医療センター
国保小見川総合病院
ちば県民保険予防財団がん検診センター
船橋市立医療センター
東葛病院
順天堂大学浦安病院
江東微生物研究所千葉支所
千葉市立海浜病院
(株)サンリツ
東京歯科大学千葉病院
千葉徳洲会病院
東京慈恵会医科大学付属柏病院
千葉県こども病院
千葉西総合病院
帝京大学医学部付属市原病院
東邦大学医学部付属佐倉病院
千葉県がんセンター
国立がんセンター東病院
日本医科大学付属千葉北総病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県済生会習志野病院

精度管理参加施設数の推移



精度管理の実際

15%緩衝ホルマリン固定材料 (肝臓)
未染標本・アンケート用紙 紙マップ

染色

精度管理実施染色

HE染色

PAS染色

膠原線維染色

鍍銀染色

研究班員による予備集計

研修会の開催 標本の供覧

標本の評価方法

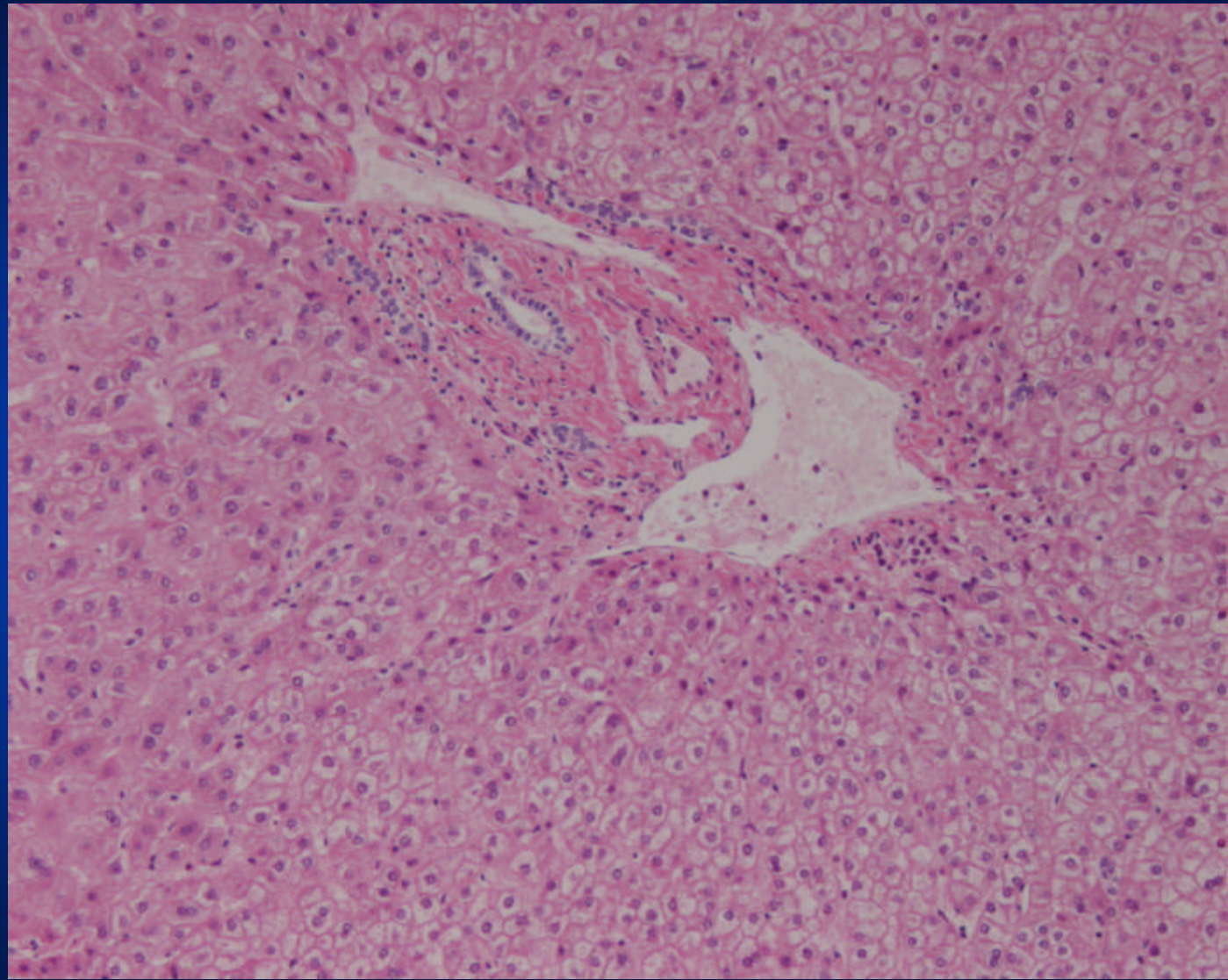
- ・昨年度と同様に各評価項目を3点の配点として採点表を作成した。
- ・評価基準は日本臨床病理学会認定病理技術士試験の採点を基準とした。
- ・評価は病理検査研究班研修会にて参加者全員で行なうこととしているが、予備集計として研究班委員8名で鏡検し、評価点を算出した。
- ・各染色の総合評価として、ABCの3段階評価も行なった。但し、特殊染色においては目的物質の染色性の評価が1点の場合、他の項目の採点にかかわらずC評価とした。

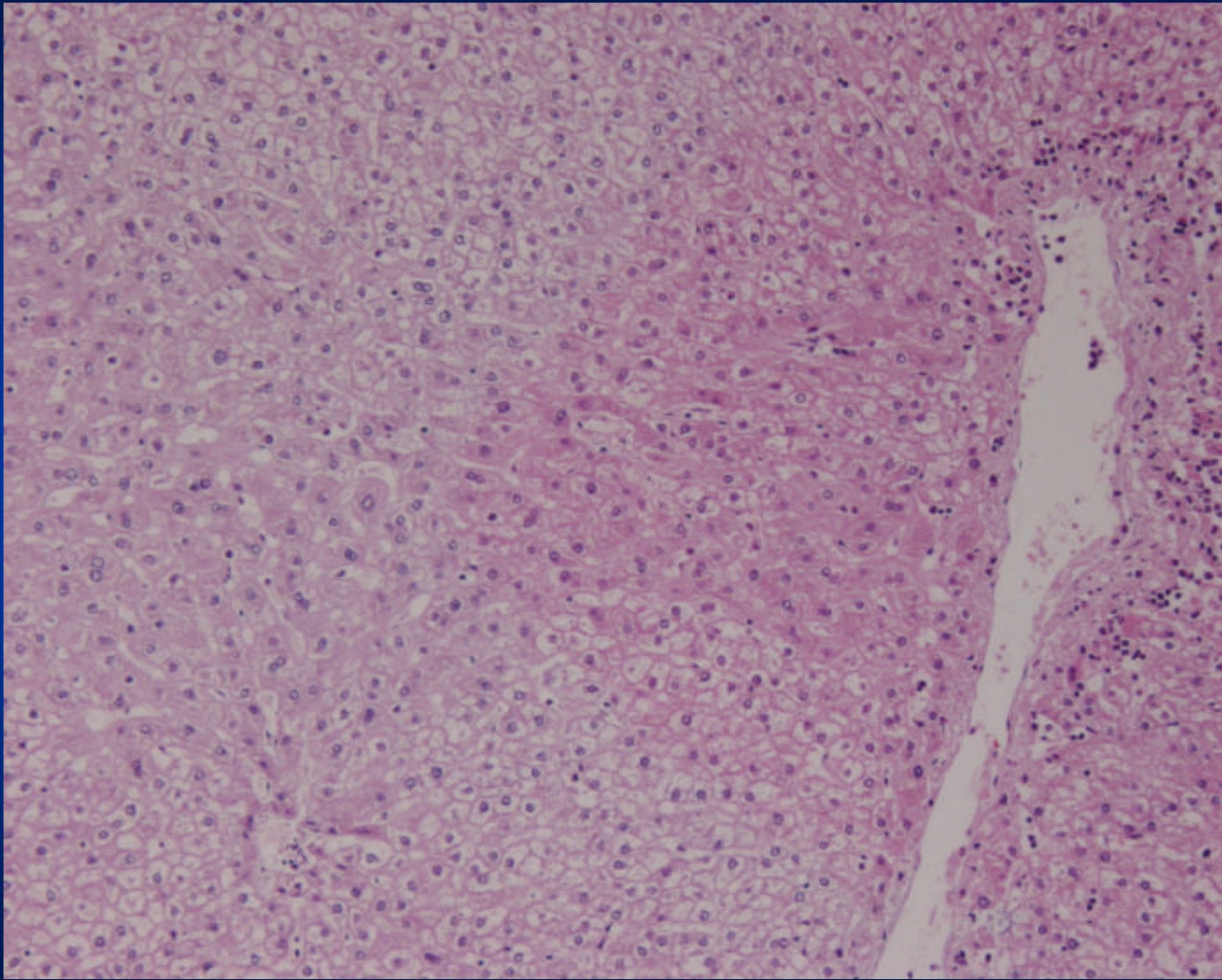
総合評価表

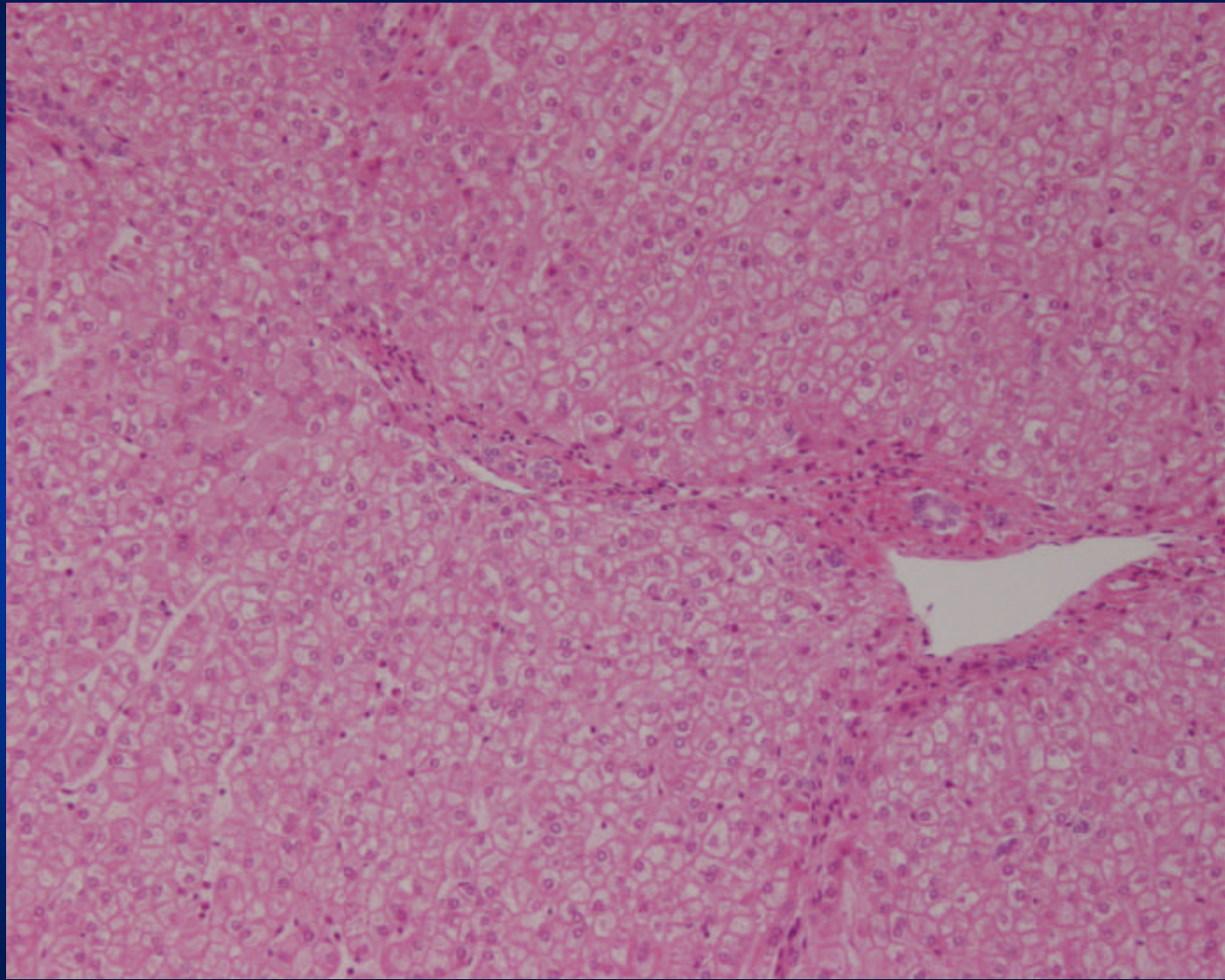
	A	B	C
HE染色	11~12	7~10	4~6
PAS染色	6	3~5	2
膠原線維染色	8~9	5~7	3~4
鍍銀染色	5~6	3~4	2

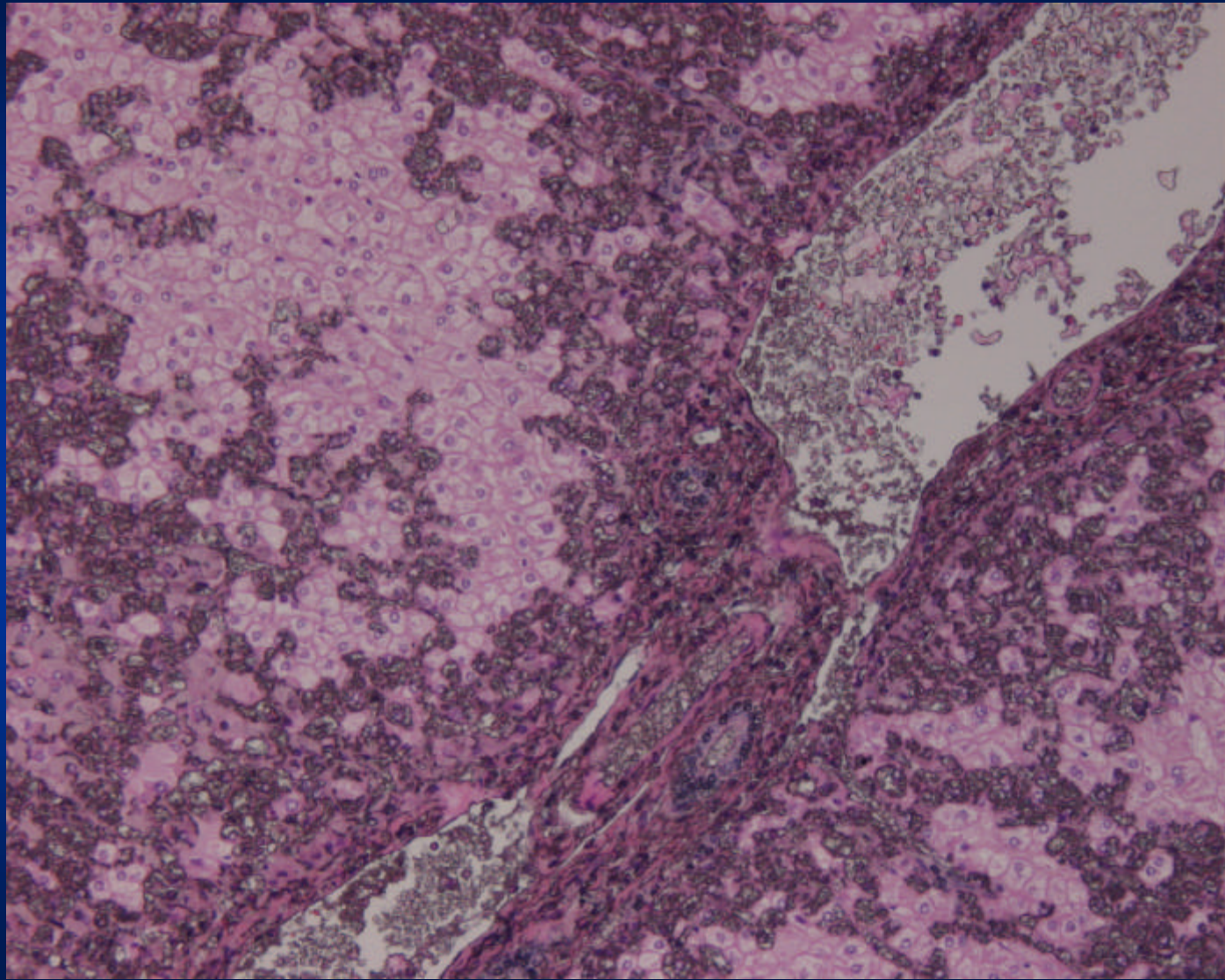
HE染色・標本評価表

評価項目	配点
ヘマトキシリンの染色性	3
エオジンの染色性	3
共染色の有無と程度	3
脱水不良の有無・封入操作	3
合計	12

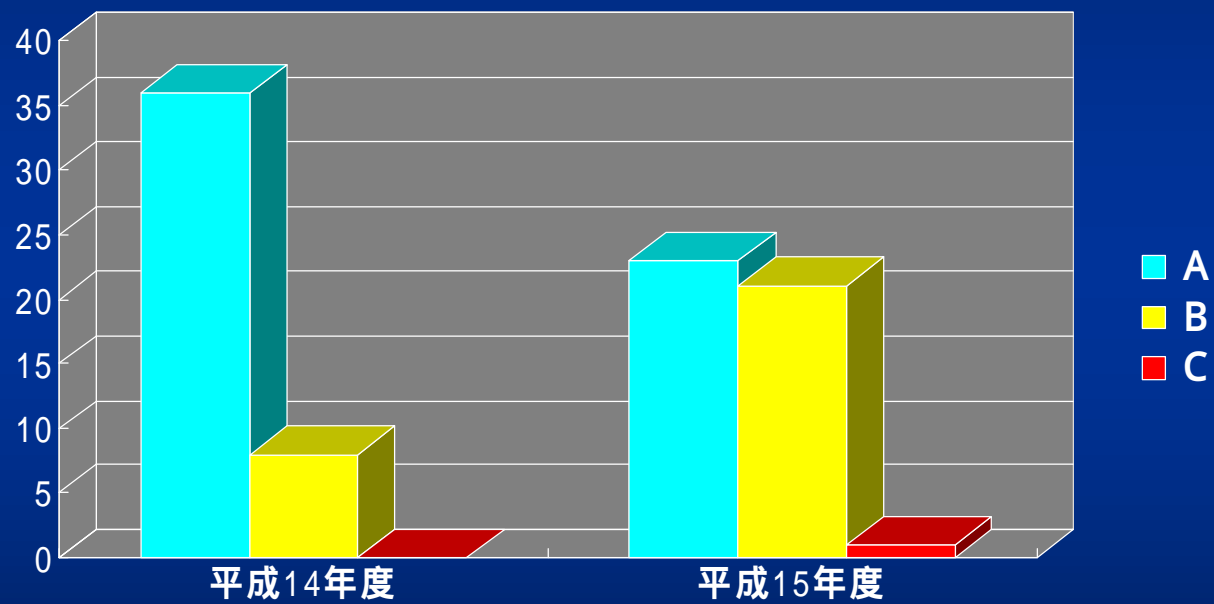






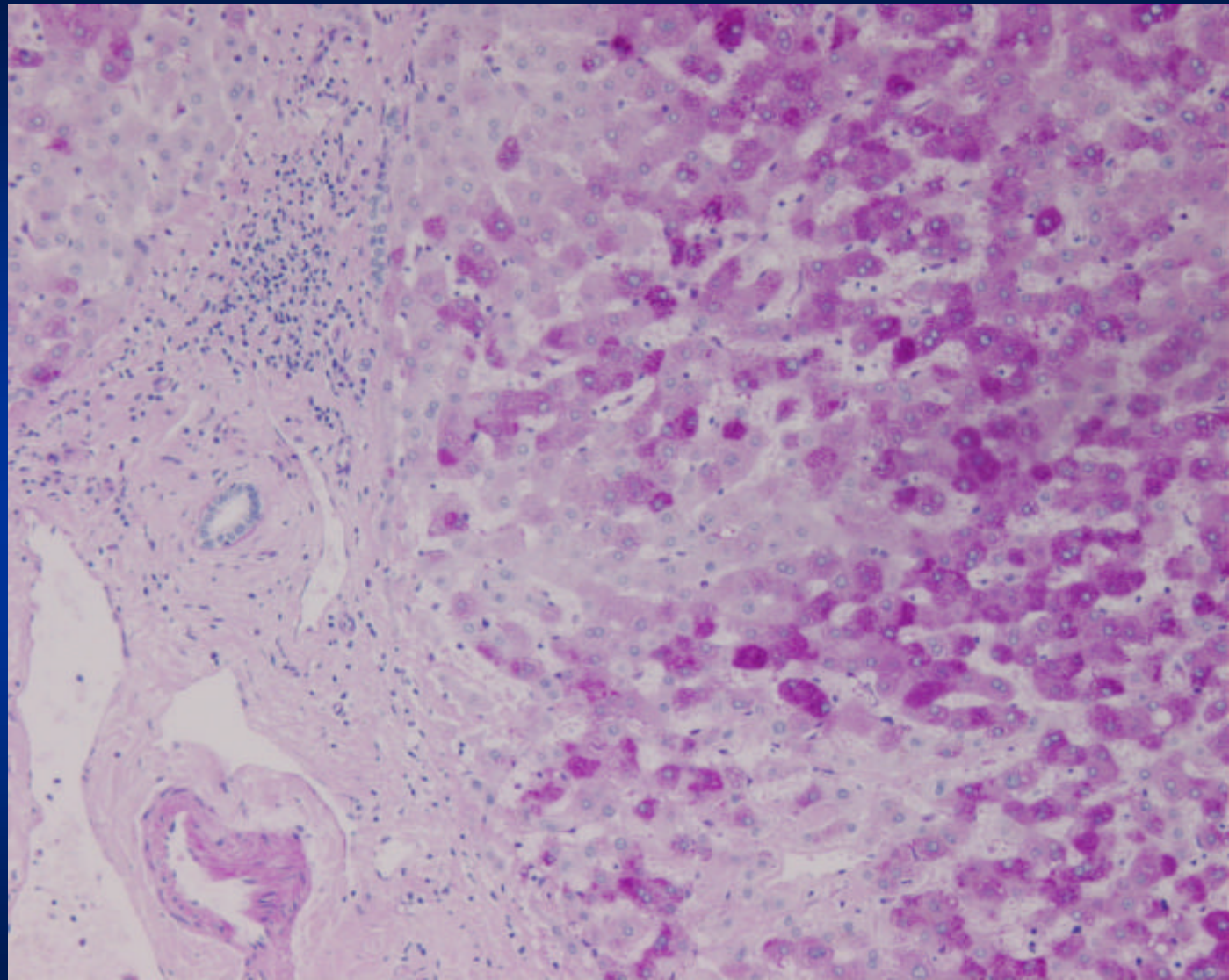


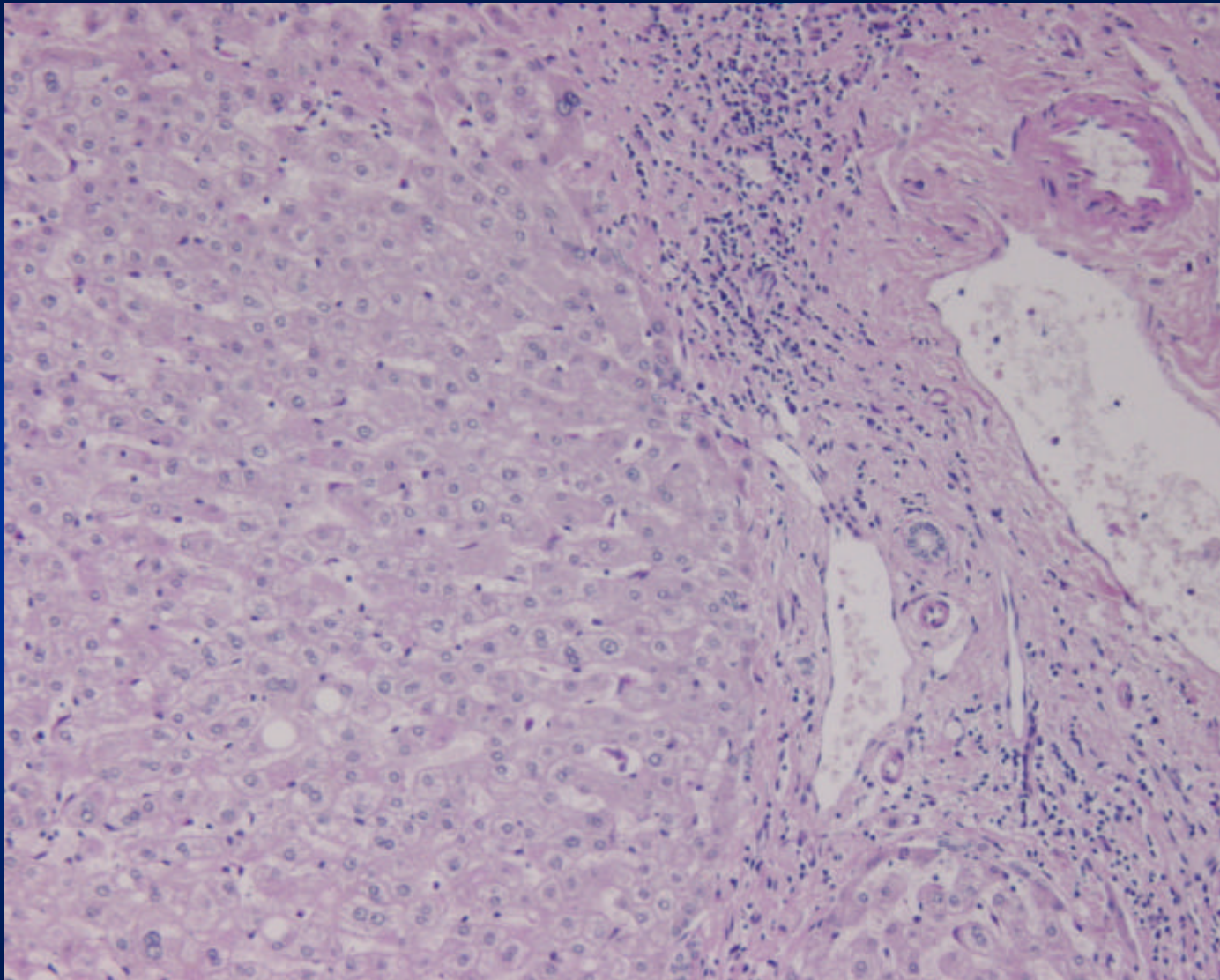
HE染色評価 (昨年度との比較)

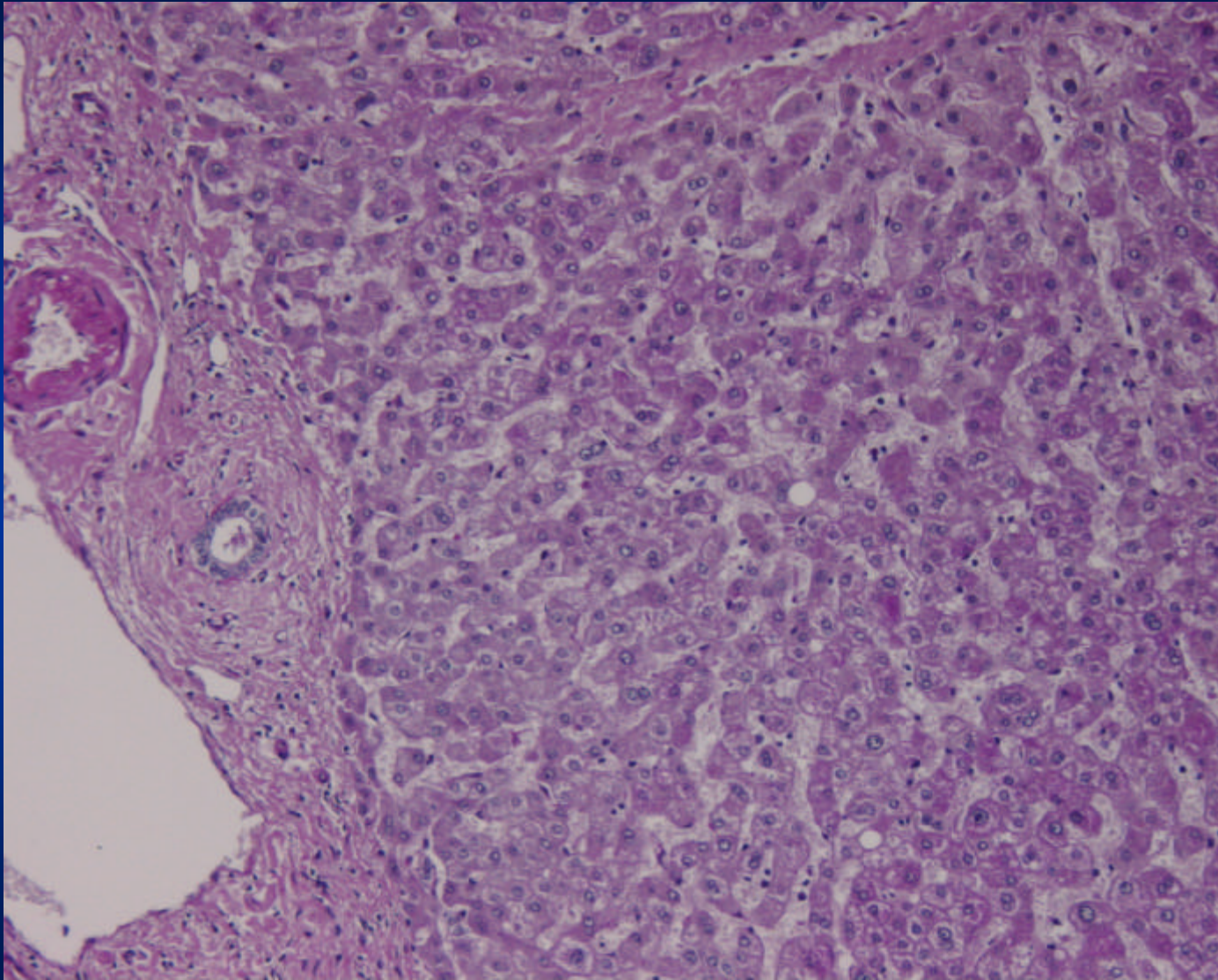


PAS染色・標本評価表

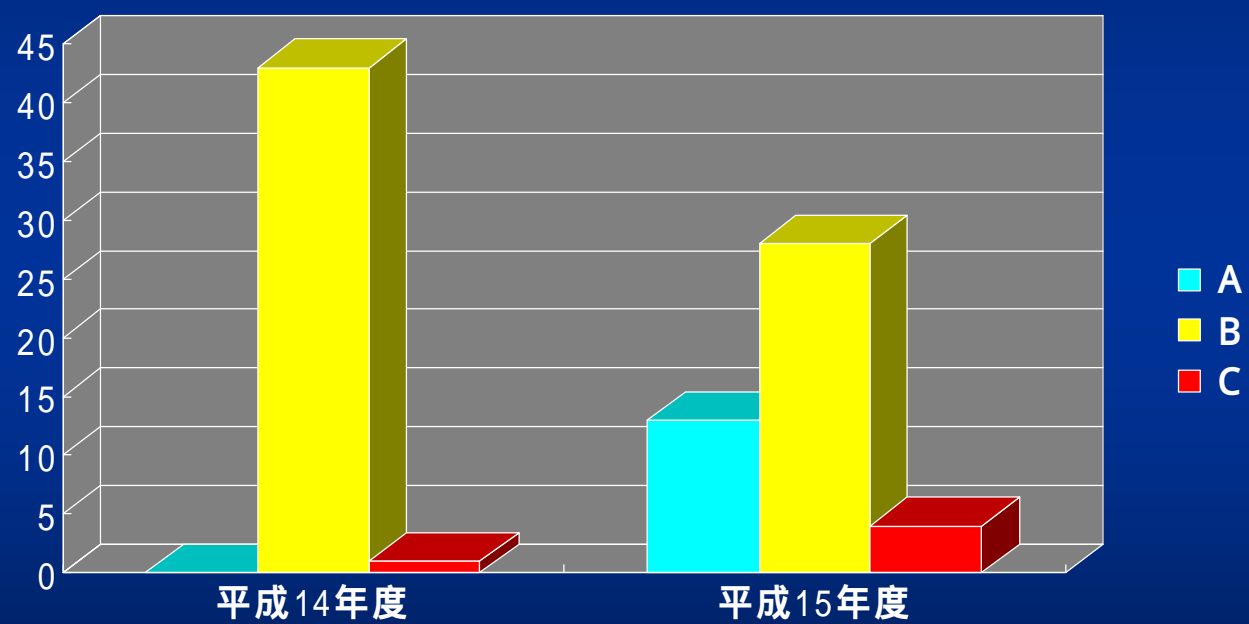
評価項目	配点
グリコーゲンの染色性	3
共染色の有無と程度	3
合計	6





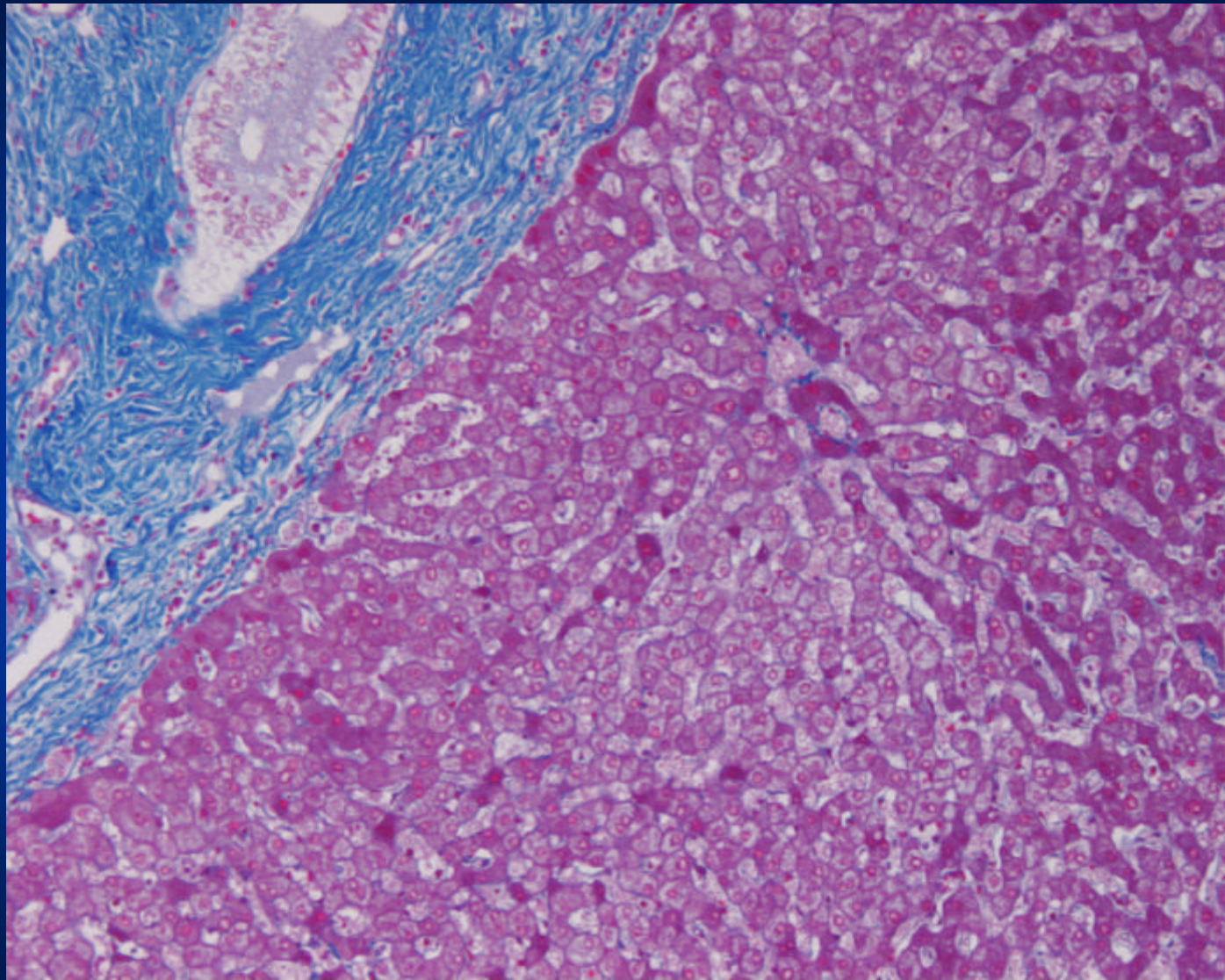


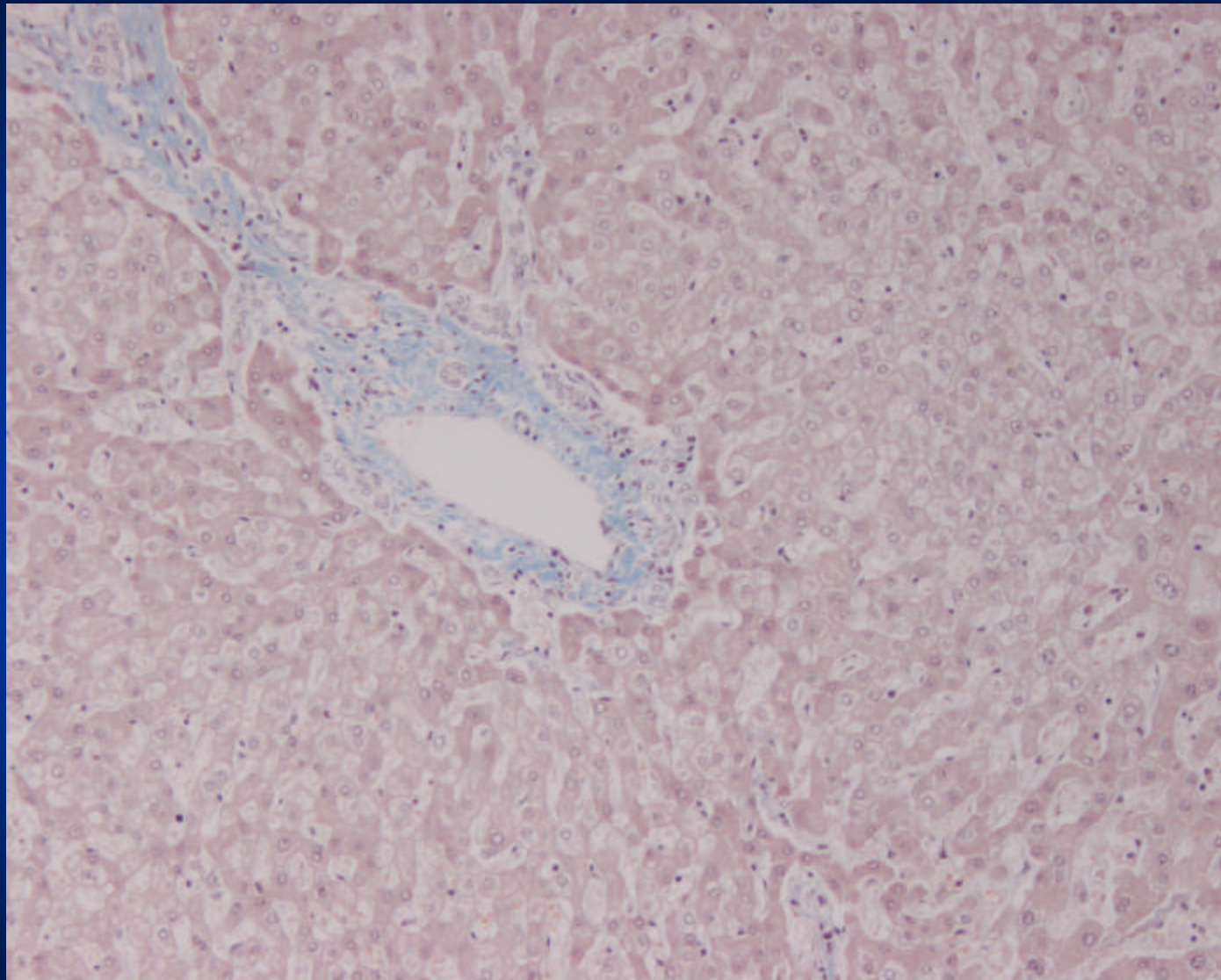
PAS染色評価 (昨年度との比較)



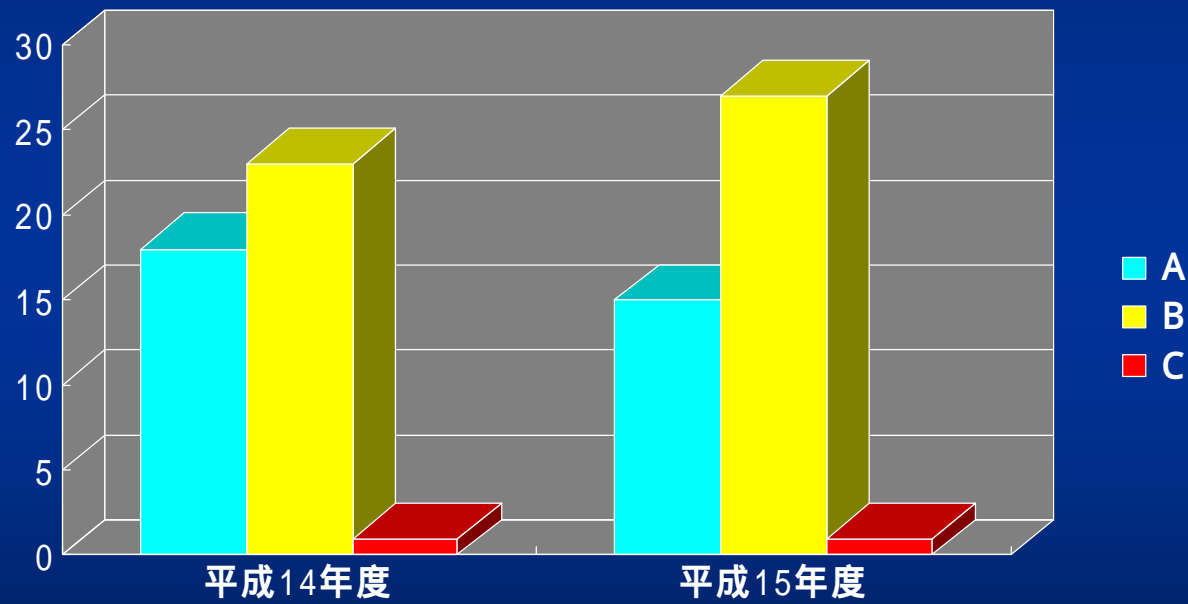
膠原線維染色・標本評価表

評価項目	配点
膠原線維の染色性	3
共染色の有無と程度	3
核の染色性	3
合計	9



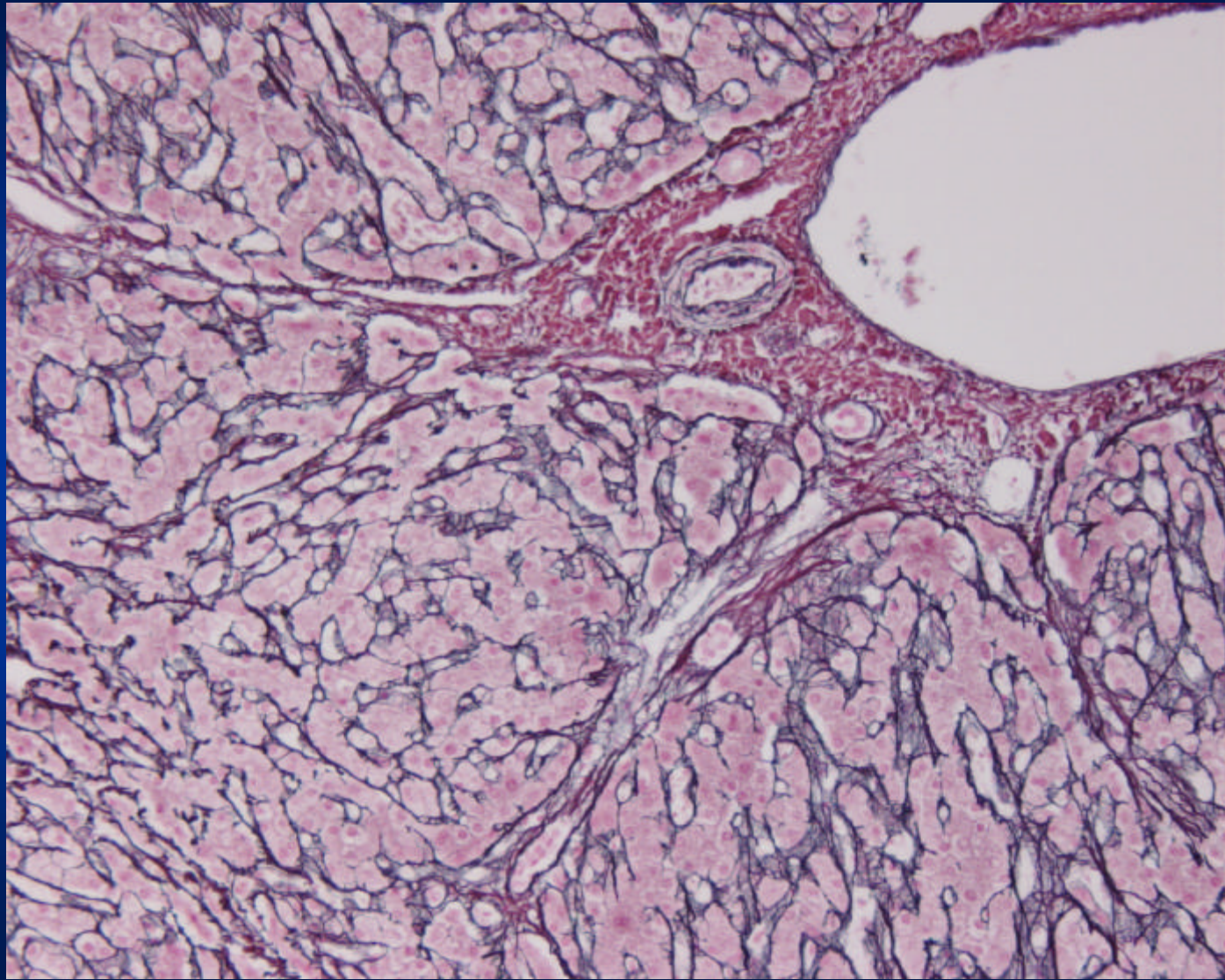


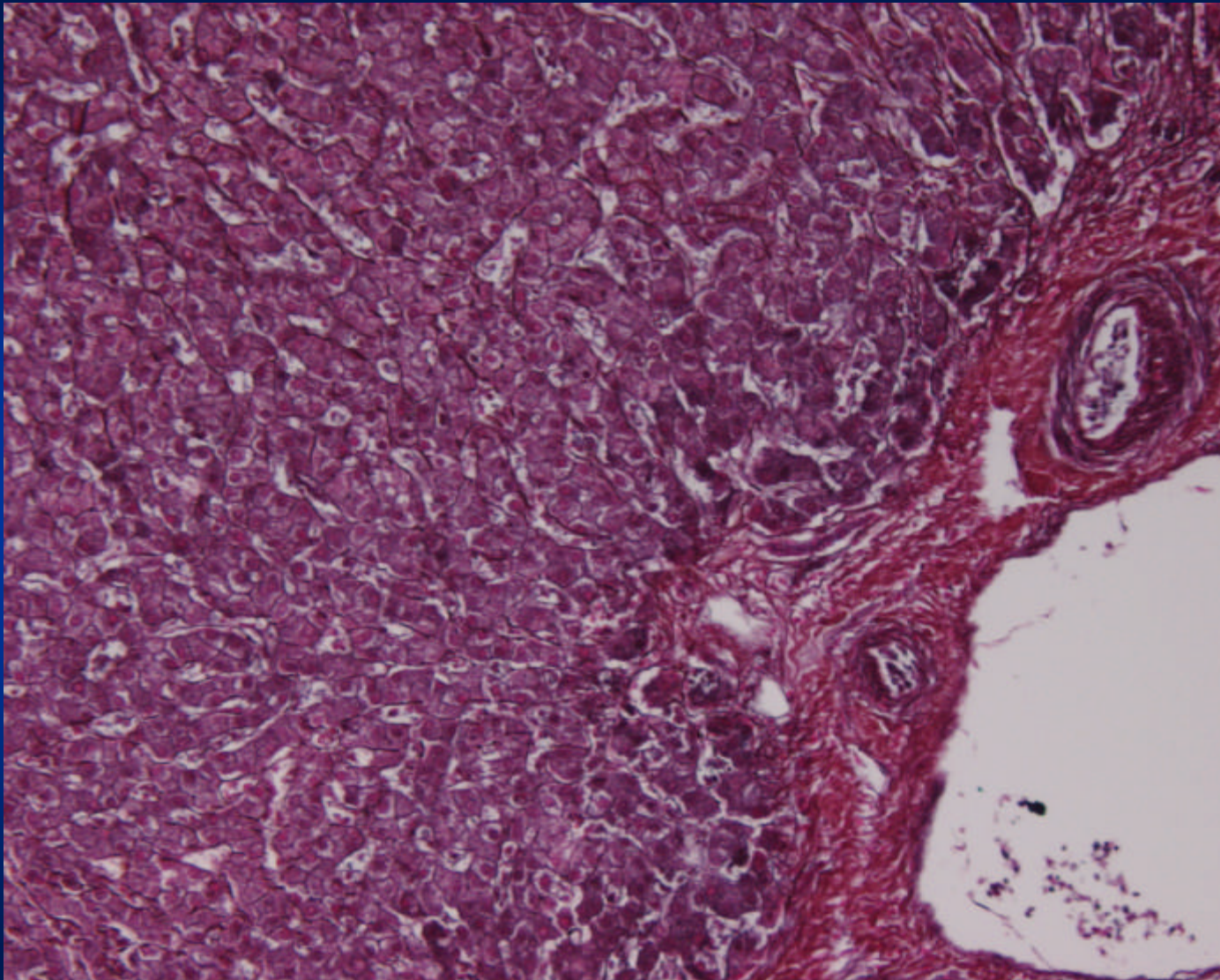
膠原線維染色評価 (昨年度との比較)

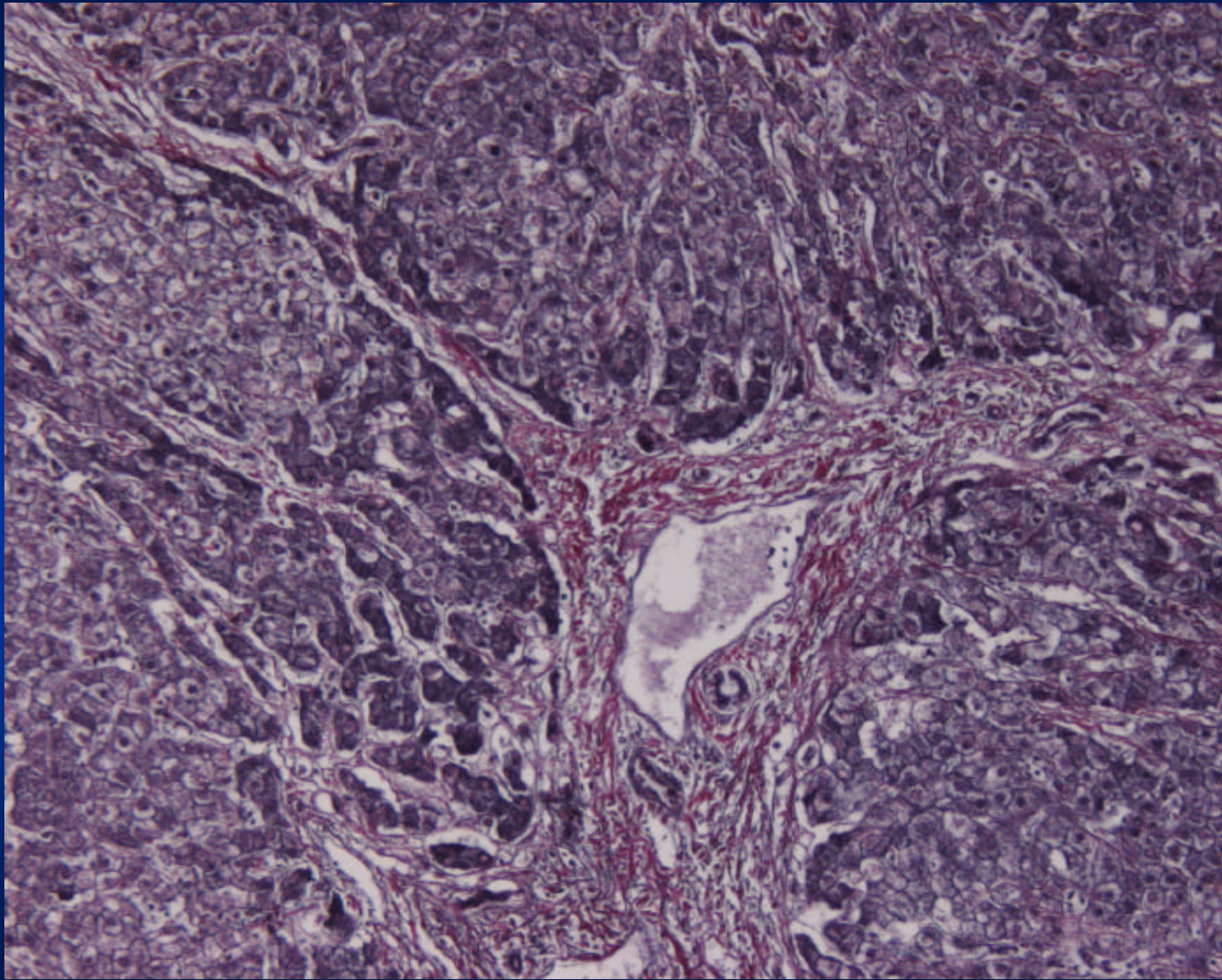


鍍銀染色 標本評価表

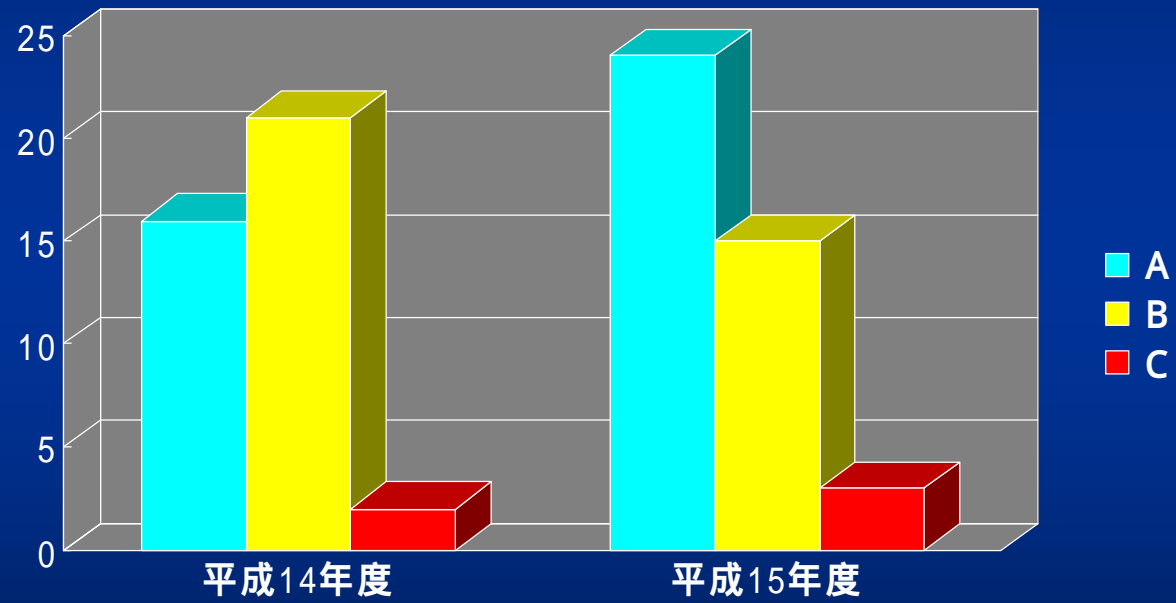
評価項目	配点
格子線維の染色性	3
核の染色性	3
合計	6



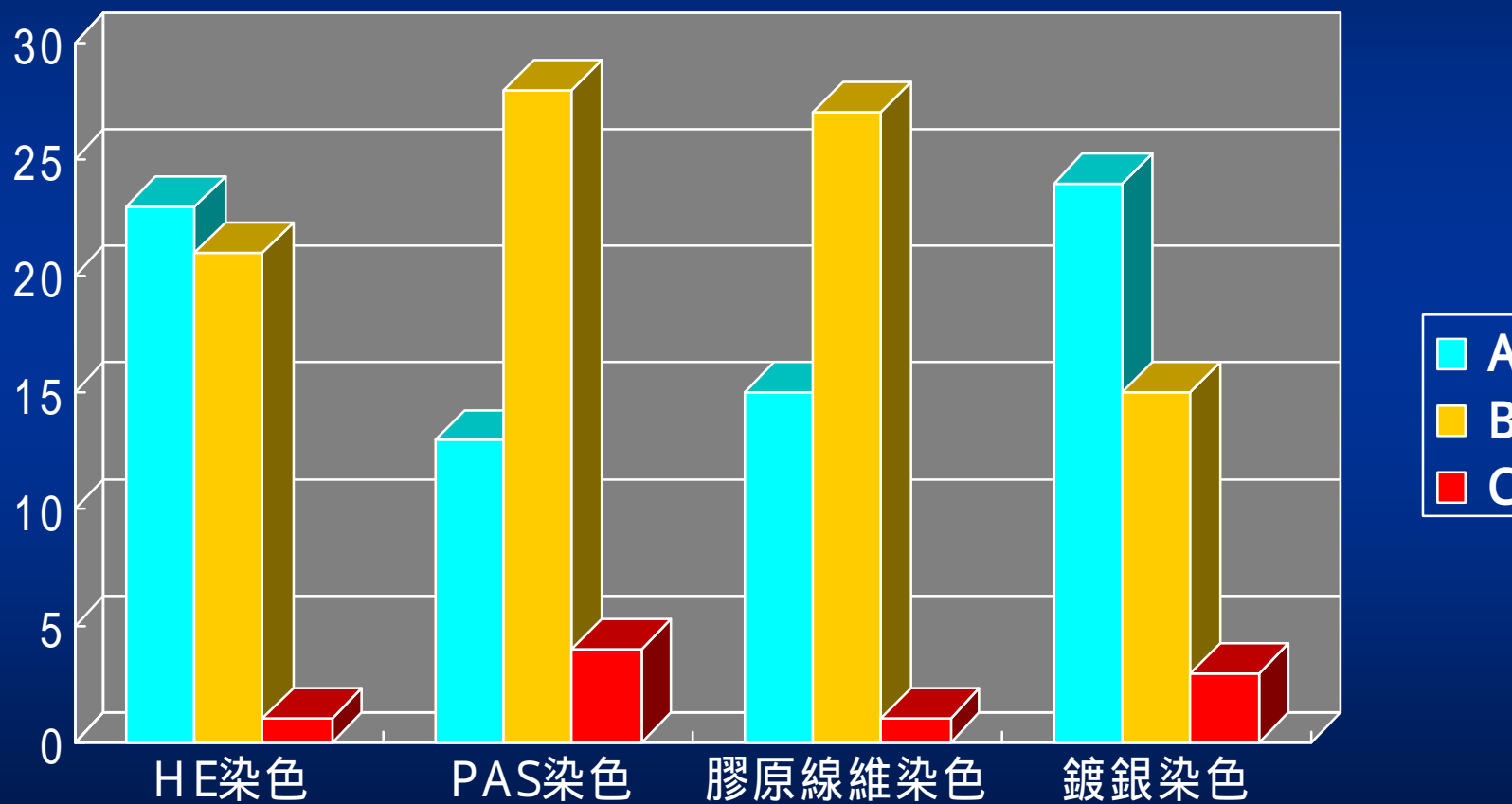




鍍銀染色評価 (昨年度との比較)



各染色の総合評価



平成15年度千臨技病理検査研究班精度管理総括

今回の精度管理調査は45施設の参加を得た。各施設に未染標本を配布し染色標本の評価およびアンケート調査を行った。染色標本評価については、各項目の評価点と合計評価点にくわえ、各染色について総合評価としてABCの3段階評価を行った。

評価結果

- ・ HE染色は44施設で診断に支障のない標本が作製されていたが、1施設でヘマトキシリンの染色性が弱いためコントラストの低下を認めた。
- ・ PAS染色は4施設でシッフ試薬の反応が弱く、グリコーゲンの染色が不良であった。各施設で酸化時間、試薬反応時間、試薬管理を検討する必要があると考えた。
- ・ 膠原線維染色は多くの参加施設で細い膠原線維染色が不足していた。さらに、1施設では極めて染色性が不良であり、染色液の劣化を示唆する所見が認められた。
- ・ 鍍銀染色は3施設で細網線維と膠原線維の染め分けが不十分であった。また、1施設は格子線維の染色性が極めて不良だった。

さらなる目標に向けて！

今回の精度管理調査は各施設に未染標本を配布したため、薄切不良等の技術点が削除され染色技術のみの評価となった。PAS染色・膠原線維染色・鍍銀染色において診断上問題となる標本が数施設認められ、昨年同様に今後の精度管理の課題となった。

各染色についてC評価の施設には、コメントを添付した評価表の配布を予定しており、改善の参考となることを期待する。